

埼玉県南西部就労移行連合会の取り組み

～就労移行を中心とした、地域における「横のつながり」の効果を最大化する実践の紹介～

- 高口 和之（NPO 法人志木市精神保健福祉をすすめる会 傍楽舎 管理者）
- 河辺 朋久（一般財団法人福祉教育支援協会 就労移行支援事業所シャローム和光）
- 山口 将秀（株式会社トレパル torepal 就労移行支援事業所）
- 中村 竜志（障害者就業・生活支援センターSWAN）

1 はじめに

福祉において横のつながりは目新しいことではなく、至極当たり前のことである。ただ、私達が実践してきたことは就労移行支援事業所同士の連携である。一般的に就労移行支援事業所は互いに手を組む関係ではなく、ライバル関係である。すなわち、利用者を取り合う関係であるということ。しかし、埼玉県南西部の地域（志木市、朝霞市、和光市、新座市、富士見市、ふじみ野市、三芳町）にある就労移行支援事業所で結成した埼玉県南西部就労移行連合会（以下「連合会」という。）は横のつながりを大事にすることを選んだ。連合会が何故横のつながりを大事にしていたのかを述べていく。

2 就労移行支援事業所合同説明会の開催

連合会結成の起源となったのは、障害者就業・生活支援センターSWANが発端となり、圏域にある就労移行支援事業所の会議を開催したことである。開始当初は事例検討や施設の中での困りごとを共有することが中心であった。

その中で、当事者のため、その家族のため、地域のために何か出来ないかと模索し、就労移行支援事業所合同説明会を実施した。目的は地域にある全ての就労移行支援事業所を知ってもらうことである。何故知ってもらうことが大事か、それは当事者が限られた情報しか得られていないことに起因する。また、就労移行支援事業所を探すときにコーディネーターとして相談員がつくことになるが、その相談員が全ての事業所を把握しているわけではない。さらには、学生の進路を考える特別支援学校の先生、市役所のワーカー等も同様であり、多くの方に地域にある就労移行支援事業所を知っていただくことを目的とした。

就労移行支援事業所合同説明会の実績として、1年目は約70名、2年目は約80名、3年目は約70名と数多くの方にご参加いただいた。3年目には障害者雇用を行っている有限会社ノアに実践報告をいただき、参加者の満足度がとても高かった。4年目は企画段階だが、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響もありオンライン開催を予定している。

3 横のつながりの重要性

就労移行支援事業所合同説明会の開催を重ねていく中で互いの事業所の特徴を深く知ることができ、連携がスムーズになった。メリットは3つある。

1つ目は、互いに高め合うことができることである。他の事業所の強みを知ったときに「このままではまずい」といった危機感が生じ、事業所の特徴を再考することに繋がる。それは結果として当事者に還元されるため、常に進化したサービスを提供できるということになる。2つ目は、就労移行支援事業所の見学にいらした当事者の希望と当該事業所の特徴にミスマッチが起こりそうな時に、当事者の希望に合致した事業所を紹介できることである。例えば、事務職を希望しているのに作業訓練中心の事業所はミスマッチといったことである。3つ目は、困り事が生じた時に密に情報を共有できることである。直近では、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響で事業所の安全利用が求められた。在宅訓練の内容、ソーシャルディスタンスの確保、従業員の時差通勤等、各事業所が実施している感染症対策をスムーズに共有することができた。

そして、連合会のコミュニケーションツールとして、評判の高い「Slack」を利用している。密に情報を取り合うだけでなく、企業でも当たり前のように導入されているツールを使うことは、支援者のITリテラシー向上をもたらす。支援者は旧態依然の古い体質ではなく、常に進化することが必要なのである。横の繋がり互いに刺激を与え、新しい価値を生む。それは、新しいサービスを生み出すことになり、地域がより活性化されるということである。革新は一組織の中にあるのではなく、地域にあるということだ。

【連絡先】

中村 竜志（なかむら りゅうじ）
障害者就業・生活支援センターSWAN
Tel : 070-5590-2761
e-mail: director.swan.nakapotsu@yamato-jiritsu.jp